



日本消費者教育学会第29回全国大会で、ACAPミニ消費者啓発展を開催



資料の展示・配布とともに、タペストリーを使って
ACAPを紹介



資料の内容をどのように授業などに活かすか、
真剣なまなざしで確認される参加者

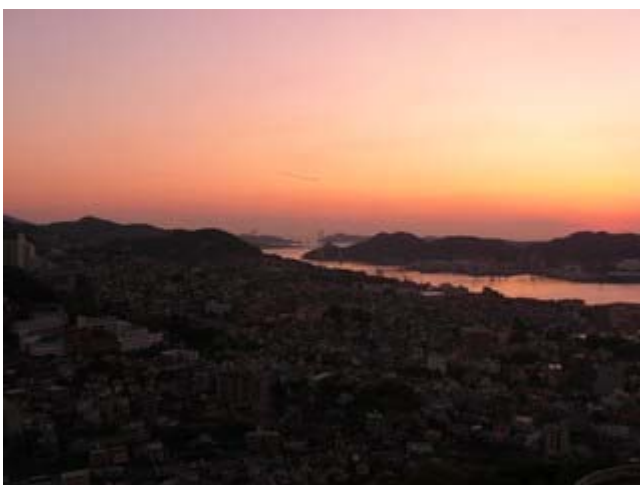
10月10日(土)～10月11日(日)、長崎大学文教キャンパス(長崎市)において、「日本消費者教育学会第29回全国大会」が開催された。

全国大会には、消費者教育のあり方を研究し、実践している大学教員、大学院生などの教育関係者や、ACAP会員、消費者行政関係者など、同会会員を中心にした130名が参加。ACAPでは、主な参加者が教育関係者であることから、教員が授業づくりに活用できる啓発資料を会員企業から募り、「ACAPミニ 消費者啓発展」を開催した。

テーブル6脚を使って展示し、配布した資料は49種類。食品、通信、保険、化学、製造、衣類など、幅広い業種が集まるACAPの特色を生かして、暮らしの多くの場面で役立つ資料提供を行った。啓発展を行った会場は、環境科学部新々館141教室。1日目にはシンポジウムと総会が行われ、2日目は参加者の休憩室兼昼食会場になった。大会事務局のはからいにより、もっとも参加者が集まる教室で開設させていただいた。

啓発資料を手にする参加者からは、「ACAP会員企業が作成する資料は最新の情報が集まっている」、「携帯電話などの情報関係は不得手なので、わかりやすい資料は授業に活かしやすい」といった声を、数多く聞くことができた。

ある大学教員からは、「早速、来週の授業で活用したいので、すべての資料を1種類ずつ13セットいただきたい」、消費生活センターの相談員からは「事業者団体が作成する資料をセンターに置きたい」といった申し出をいただいた。





2日目の昼過ぎには用意した資料も残りわずかになり、希望の資料を入手できない方からは、「入手先を教えてください」といった声も。

お持ち帰りいただいた資料は学会会員にとっては授業や研究への活用、そして行政関係者にとっては消費生活センターの資料コーナー充実に繋がり、ACAPにとっては貴重な資料提供の場となった。

(大会の懇親会が開催されたホテルからの夕景。全国から集まった参加者を長崎の夕日が歓迎)

